

# 長野市立七二会小学校の児童が 育てた蚕の繭で作ったシルク灯笼

児童の  
アイデア  
満載

草木染めやデザインなど  
進化を続ける  
シルク灯笼

およそ1千匹の蚕に、地域の協力を得て集めた桑の葉を与え、繭の活用法の一つとして選んだのはシルク灯笼。

試行錯誤の末、電動ドリルを使って回転する木枠に生糸を直接巻き込む技術の開発に成功。その後も切り絵や落ち葉を利用して、デザインを工夫したり、生糸を藍やブルーベリーで染めたり、若き伝承者の挑戦は続きます。



灯笼の木枠も廃材を利用しています。



## 七二会地区と七二会小学校



画像提供：INC長野ケーブルテレビ

七二会地区は長野市から西に15kmほどの標高400m-900mにある農村地区です。古くから養蚕も盛んで、蚕の卵を保存する風穴も現存します。七二会小学校では、25名の生徒が6年前から地域の方から養蚕を学び、3～6年生を中心に、試行錯誤を重ねて完成させたのがシルク灯笼です。全国に向けて情報発信して広めています。